



幾千幾万の時を越えて  
この地球に誕生した私  
この愛する地球は

今どんな事を望むのですか  
遠い地では人の命など

あまりにも無残に消されて行く  
悲しむ言葉さえ打ち消されて

私はただ暖かな部屋にいて  
見せ掛けの平和に酔いながら  
少しだけ欲望を持ち

美しき貴方に  
ただ逢いたいと願い  
そして少しだけ反省する

心無い贅沢も心痛む  
空腹も満たせずに

この時を苦しみ  
歪む笑顔を隠す人に

遠い日に出会ったイスラムの君  
共に平らな日々を祈った  
あの日あの時を忘れられない

## <めまい>

---

浅い眠りの中で  
なんども夢をみる

私に飛び込んでくる美しき貴方は  
軽いめまいがするほど

典雅、よすがに  
この心はすがりつくしかない

何度、愚か過ぎる恋を描いたことでしょう  
美しく眩しく輝く姿は大人の男

そして時に一瞬見せる幼子のような面差しは  
私を童女のような狂おしい想いにする

目の奥の残像が  
夢の中で描く恋を

今私に語らってくれる  
そっと触れる美しき貴方の肩に

えもいえぬかぐわしき香りの人  
昔乙女の夢のつづきは

ここまで先のない  
甘い夢などは許されぬ幻の愛

＜遠い記憶＞

百年の孤独  
聞き覚えのある  
南の方の銘酒を思い出す

人は千年も万年も  
生きられないけれど  
この大きな地球の営み

そのほんの一瞬  
私の生きた記憶を  
美しき貴方の心に刻まれたのでしょうか

出逢えた事の奇跡  
美しき思い出の奇跡  
この世に生を受けた奇跡

その見えない力に感謝  
今朝の青空に心弾ませて  
もう少し生きるために一步前へ進もう

＜物陰女の憂鬱＞

恋がとぎれる日は  
私のすべてが灰色にかわる

このガラス張りの心が  
音もなく崩れて行く悲しみ

美しき貴方の姿を必死で追い求めて  
この心が少しも近づかない

路傍の石さえも  
私をあざ笑うように

恋を忘れた日は  
ただのおばさんになる日

焦りと混乱の中で描く  
妄想さえも気恥ずかしくて

虚空のむなしき今日の終わり  
飢餓のつらさよりも深い苦しみ

今日の恋がとぎれた時間が  
何を望む事もない愛

群衆の中の輝ける姿を、幻を、そっとみつめて  
貴方の姿を求めた時

それは私ひとりの恋の成就  
人生の黄昏時を生きる私は

物陰女の密かな愛さえも  
とぎれてしまう心の曲線が

激しく乱れ波打つ  
汝は女なのか老女なのか

つめたい秋の雨が音もなく降る  
朝の目覚めは寂しくも不思議な心地よさ  
夢の続きのような温もり

いつもの朝のはじまりは  
予定のない今日の時間を  
思いのままに美しき貴方への恋をつみ重ねて

穏やかに過ぎて行く時間を  
雨音に心をあわせて  
ひとつの言葉を綴ろう

あの幼子のような眼差しに  
美しすぎるほどの肉体の美に  
悲しみの瞳は深すぎる愛を描き

まだ観る事の出来ない姿に  
思いをはせて静かな時間が通り過ぎる  
雨の日の愛はいくつもの美しき貴方の姿を想う

＜今、ここにいる事＞

幾たびの出逢いと  
昼の月はそこにいる存在

真っ白な輝きの中で  
喜びも苦しみも悲しみも  
ただそこにいて  
私が進むべき道を照らす

美しき貴方の旅の途中を  
私は頼りない想いで祈るしかなくて

ふと気づけば  
たそがれの時もなお

前に歩き出す勇気を  
昼の月と美しき貴方の幻に  
私は求めている

希望がそこにあるから  
晩秋の陽は優しく照らして  
混乱する私の心を癒してくれる

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

もう息切れしちまったんだよ  
苦しくてさ～泣いちまったんだよ  
けどね、まだほしいものがあるんだね

まだ誰かに私の存在を知ってほしいんだね  
そう私を認めてほしいんだね  
でも息切れしちまったんだよ

苦しくて悲しくてそして幸せはずなのに  
でもまだ未練があるんだよ  
この動かない手足が前に進みたがるんだよ

あの青空が忘れられなくて  
あのやさしい風が恋しくて  
でも息切れしちまったんだよ

我儘な私の想いが  
心と体をばらばらにしてね  
叫んでもしまうんだよ

人間て奴はどうしようもないね  
だから命あるかぎり  
心が痛いんだね

「美しき人」へ

感動とジェラシーと混乱と  
涙が流れた日を想いながら

## ホエム

<http://p.booklog.jp/book/39514>

著者：みしまゆみこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/hsa33712/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/39514>

ブクログのパブ一本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/39514>

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.